

# 神塚淑子教授 略歴・業績

## 〈略 歴〉

昭和28年2月13日 兵庫県姫路市に生まれる

## 学 歴

昭和46年3月 兵庫県立姫路西高等学校卒業  
昭和46年4月 東京大学文科3類入学  
昭和50年3月 同 文学部中国哲学科卒業  
昭和50年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程中国哲学専攻入学  
昭和52年3月 同 修了  
昭和52年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程中国哲学専攻進学  
昭和54年3月 同 中途退学

## 職 歴

昭和54年4月 東京大学文学部助手  
昭和56年4月 名古屋大学教養部講師  
昭和61年6月 名古屋大学教養部助教授  
平成5年10月 名古屋大学情報文化学部助教授  
平成11年5月 名古屋大学情報文化学部教授  
平成15年4月 名古屋大学大学院文学研究科教授  
平成18年4月 名古屋大学大学院文学研究科副研究科長（兼務。平成20年3月まで）  
平成20年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員（兼務。平成22年3月まで）  
平成22年4月 名古屋大学大学院文学研究科副研究科長（兼務。平成24年3月まで）  
平成29年4月 名古屋大学大学院人文学研究科教授（現在に至る）

## 学 位

昭和52年3月 文学修士（東京大学）「沈約の思想」  
平成9年10月 博士（文学）（東京大学）「上清派を中心とする六朝道教思想の研究」

## 学会活動

平成8年度～現在 日本道教学会理事  
平成13年度～現在 中国社会文化学会評議員  
平成15年度～現在 六朝学術学会評議員

平成17年度～28年度 名古屋大学中国哲学研究会会長  
 平成19年度～24年度 日本中国学会理事  
 平成25年度～26年度 同 副理事長  
 平成27年度～現在 同 理事  
 平成27年6月～現在 東方学会理事

### 学外委員等の委嘱

平成8年度～9年度 大学入試センター教科専門委員会委員  
 平成18年度・19年度、21年度・22年度、24年度・25年度、27年度・28年度  
 科学研究費委員会専門委員

### 学外非常勤講師

昭和55年度 宇都宮大学  
 昭和57年度～58年度 愛知淑徳大学  
 昭和62年度～平成5年度 愛知淑徳短期大学  
 昭和63年度～平成元年度 中部大学  
 平成3年度 北海道大学文学部（集中講義）  
 平成10年度 愛知県立大学文学部  
 平成11年度 東北大学文学部（集中講義）  
 平成11年度～14年度 金城学院大学  
 平成14年度 大阪大学文学部（集中講義）  
 平成16年度 金城学院大学  
 平成17年度～18年度 豊田工業大学  
 平成18年度 京都大学文学部（集中講義）  
 平成19年度 東北大学文学部（集中講義）  
 平成20年度 九州大学文学部（集中講義）  
 平成26年度 東北大学文学部（集中講義）  
 平成29年度 京都大学文学部（集中講義）

### 〈業 績〉

#### 単 著

- 『六朝道教思想の研究』創文社、1999年2月、588頁
- 『老子—〈道〉への回帰—』岩波書店、2009年11月、232頁
- 『道教經典の形成と仏教』名古屋大学出版会、2017年10月、596頁

#### 単 訳

- 『文選（下）』学習研究社、1985年1月、481頁

## 共 著 (分担執筆)

- 1 『岩波講座東洋思想』第14巻『中国宗教思想2』岩波書店、1990年1月  
「善と悪」(pp. 190-201)、「往と還」(pp. 252-263)
- 2 『岩波講座東洋思想』第13巻『中国宗教思想1』岩波書店、1990年4月  
「有神と無神」(pp. 162-177)、「祭祀と祈祷」(pp. 178-195)

## 共 訳

- 1 『現代語訳阿含経典・長阿含経』全6巻(丘山新・末木文美士ほかと共著)平河出版社、1995年1月・1997年7月・2000年1月・2001年4月・2002年8月・2005年12月
- 2 『真理の偈と物語—法句譬喩経現代語訳—』上・下(菅野博史・榎本文雄ほかと共著)大蔵出版、2001年4月・2001年12月

## 論 文

- 1 「沈約と仏教—『懺悔文』を中心として—」、『中哲文学会報』第3号、pp. 31-45、東大中哲文学会、1978年6月
- 2 「沈約の隠逸思想」、『日本中国学会報』第31集、pp. 105-118、日本中国学会、1979年10月
- 3 「呉筠の生涯と思想」、『東方宗教』第54号、pp. 33-51、日本道教学会、1979年11月
- 4 「司馬承禎『坐忘論』について—唐代道教における修養論—」、『東洋文化』第62号、pp. 213-242、東京大学東洋文化研究所、1982年3月
- 5 「『真誥』について(上)」、『名古屋大学教養部紀要』A第30輯、pp. 175-219、1986年2月
- 6 「『真誥』について(下)」、『名古屋大学教養部紀要』A第31輯、pp. 1-62、1987年2月
- 7 「『太平経』の承負と太平の理論について」、『名古屋大学教養部紀要』A第32輯、pp. 41-75、1988年2月
- 8 「開劫度人説の形成(上)—天地の循環的再生説をめぐって—」、『東洋学術研究』第27巻別冊、pp. 35-53、東洋哲学研究所、1988年11月
- 9 「『太平経』における「心」の概念」、『山下龍二教授退官記念論集』pp. 101-122、研文社、1990年10月
- 10 「方諸青童君をめぐって—六朝上清派道教の一考察—」、『東方宗教』第76号、pp. 1-23、日本道教学会、1990年11月
- 11 「空海の文字観—六朝宗教思想との関わりにおいて—」、『日本社会の構造と異文化受容システム』pp. 27-44、名古屋大学、1991年3月
- 12 「開劫度人説の形成(下)—天書出現による救済説をめぐって—」、『名古屋大学教養部紀要』A第36輯、pp. 1-32、1992年1月
- 13 「魔の観念と消魔の思想」、吉川忠夫編『中国古道教史研究』pp. 89-144、同朋舎出版、1992年2月
- 14 「道教儀礼と龍—六朝・唐代の投龍簡をめぐって—」、『日中文化研究』3、pp. 126-134、勉誠社、1992年7月
- 15 「南北朝時代の道教造像—宗教思想史的考察を中心に—」、礪波護編『中国中世の文物』pp. 225-289、京都大学人文科学研究所、1993年3月

- 16 「六朝道經の形成とその文体—上清經の場合—」、『東洋文化研究所紀要』第129冊、pp. 53-118、東京大学東洋文化研究所、1996年2月
- 17 “The Concept of Māra and the Idea of Expelling Demons”, *Taoist Resources* 6-2, pp. 30-50, 1996-8, Indiana University, translated by Amy Lynn MILLER and Thomas H. RETERSON
- 18 “Lao-tze in Six Dynasties Taoist Sculpture”, *Lao-tze and the Tao-te ching*, pp. 63-85, 1998, State University of New York Press, translated by Livia Kohn
- 19 「六朝時代の上清經と靈宝經」、吉川忠夫編『六朝道教の研究』pp. 101-123、春秋社、1998年2月
- 20 「靈宝經と初期江南仏教」、『東方宗教』第91号、pp. 1-21、日本道教学会、1998年5月
- 21 「『太平經』の世界」、砂山稔ほか編、講座道教第1巻『道教の神々と経典』pp. 76-92、雄山閣出版、1998年11月
- 22 「則天武后期の道教」、吉川忠夫編『唐代の宗教』pp. 247-268、朋友書店、2000年7月
- 23 「六朝道經中的因果応報説与初期江南仏教」、『道教与文化學術研討會論文集』pp. 181-202、台湾国立歴史博物館、2001年2月
- 24 「六朝靈宝經に見える本生譚」、麥谷邦夫編『中国中世社会と宗教』pp. 83-105、道気社、2002年4月
- 25 「『海空智蔵經』について」、『東洋文化研究所紀要』第142冊、pp. 28-84、東京大学東洋文化研究所、2003年3月
- 26 「靈宝經における経典神聖化の論理—元始旧經の「開劫度人」説をめぐって—」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学51、pp. 71-94、2005年3月
- 27 「靈宝經に見える葛仙公」、麥谷邦夫編『三教交渉論叢』pp. 1-46、京都大学人文科学研究所、2005年3月
- 28 「隋代の道教造像」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学52、pp. 111-136、2006年3月
- 29 「天尊像・元始天尊像の成立と靈宝經」、『名古屋大学中国哲学論集』第6号、pp. 110-130、2007年3月
- 30 「《海空智蔵經》与《涅槃經》—唐初道教経典的仏教受容—（周先民訳）、『日本東方学』第1輯、pp. 98-132、中華書局、2007年8月
- 31 「六朝靈宝經中的葛仙公」（上）（下）（欽偉剛訳）、『宗教学研究』2007年第3期・第4期、pp. 1-9、pp. 2-11、四川大学道教与宗教文化研究所、2007年9月・12月
- 32 「司馬承禎と天台山」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学54、pp. 79-98、2008年3月
- 33 「空海的文字觀及其六朝宗教思想的關係」、侯甬堅・江村治樹編『陝西師範大学・名古屋大学国際學術會議 中日文化交流の歴史記憶及其展望』pp. 3-20、2008年10月
- 34 「天尊像、元始天尊像の問世、流行与靈宝經」、李淞主編『道教美術新論 第一屆道教美術史国際研討會論文集』pp. 67-78、2008年
- 35 「『海空智蔵經』続考—卷十「普記品」を中心に—」、『日本中国学会報』第62集、pp. 59-72、日本中国学会、2010年10月
- 36 「元始天尊をめぐる三教交渉」、麥谷邦夫編『三教交渉論叢続編』pp. 99-126、京都大学人文科学研究所、2011年3月
- 37 「国立国会図書館所蔵の敦煌道教写本」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学59、pp. 59-88、2013年3月

- 38 「仏典『温室経』と道典『洗浴経』」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学60、pp. 57-83、2014年3月
- 39 「六朝道教と『莊子』—『真誥』・靈宝経・陸修静—」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学62、pp. 55-81、2016年3月
- 40 「京都国立博物館所蔵敦煌道経—『太上洞玄靈宝妙経衆篇序章』を中心に—」、『名古屋大学文学部研究論集』哲学63、pp. 75-90、2017年3月

## 書評

- 1 卿希泰著『中国道教思想史綱』第一巻「漢魏両晋南北朝時期」、『燎原』15号、1982年
- 2 吉川忠夫著『書と道教の周辺』、『東方宗教』第72号、pp. 54-60、1988年10月
- 3 山田俊著『唐初道教思想史研究』、『集刊東洋学』第83号、pp. 88-93、2000年5月
- 4 戸川芳郎著『漢代の学術と文化』、『東方』第268号、pp. 20-23、2003年6月
- 5 前田繁樹著『初期道教経典の形成』、『東方宗教』第104号、pp. 96-102、2004年11月
- 6 菊地章太著『神呪経研究—六朝道教における救済思想の形成—』、『東方宗教』第116号、pp. 73-79、2010年11月

## 科学研究費並びにその報告書

- 1 昭和55年度科学研究費補助金、奨励研究(A)「唐代の道教における宇宙観と人間観についての研究」(研究代表者神塚淑子)
- 2 昭和62・63年度科学研究費補助金、総合研究(A)「中国思想史に於ける「心」観念の成立とその展開」(研究代表者山下龍二・今鷹真)研究成果報告書(1989年3月)の一部として『智慧消魔真経索引稿』
- 3 平成2・3年度科学研究費補助金、総合研究(A)「中国思想史基礎範疇の体系的研究」(研究代表者溝口雄三)研究成果報告書(1992年3月)の一部として「鬼」
- 4 平成4・5年度科学研究費補助金、総合研究(A)「漢魏六朝を中心とした辞賦、駢文の研究」(研究代表者松岡栄志)研究成果報告書(1994年3月)の一部として「六朝道経に見える駢文」
- 5 平成11・12年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(2)「六朝隋唐期道教経典に見える仏教概念の研究」(研究代表者神塚淑子)研究成果報告書、2001年3月
- 6 平成15~17年度科学研究費補助金、基盤研究(C)「唐代道教関係石刻史料の研究」(研究代表者神塚淑子)研究成果報告書、2006年3月
- 7 平成18・19年度科学研究費補助金、基盤研究(C)「六朝隋唐時代における仏教譬喩経類の受容と道教」(研究代表者神塚淑子)研究成果報告書、2008年3月
- 8 平成20~22年度科学研究費補助金、基盤研究(C)「道教の形成に及ぼした初期江南仏教の影響についての研究」(研究代表者神塚淑子)
- 9 平成23~25年度科学研究費補助金、基盤研究(C)「靈宝経を中心とする敦煌道教文献の研究」(研究代表者神塚淑子)
- 10 平成26~28年度科学研究費補助金、基盤研究(C)「六朝隋唐道教における上清派の特質とその思想文化史的意義に関する研究」(研究代表者神塚淑子)

## 学会発表

- 1 日本道教学会第28回大会（大東文化大学）「沈約と仏教」1977年11月12日
- 2 第25回国際東方学会議（日本教育会館）「呉筠の神仙可学思想」1980年5月10日
- 3 日本道教学会第40回大会（筑波大学）「六朝道教における方諸青童君」1989年11月18日
- 4 日本道教学会第48回大会（岩手大学）「靈宝經と初期江南仏教」1997年10月4日
- 5 道教与文化学術研討会（台湾・国立歴史博物館）「六朝道經中的因果応報説与初期江南仏教」2000年12月29日
- 6 第49回国際東方学会議（日本教育会館）「靈宝經における經典神聖化の論理」2004年5月21日
- 7 六朝学術学会第9回大会（斯文会館）「天尊像・元始天尊像の成立と靈宝經」2005年11月13日
- 8 2006道文化国際学術研討会（台湾・中国文化大学）「《靈宝經》裡的本生譚」2006年5月6日
- 9 中国首届道教美術史国際研討会（中国・西安）「天尊像、元始天尊像の問世、流行与靈宝經」2007年5月11日
- 10 陝西師範大学・名古屋大学国際学術討論会（中国・西安）「空海的文字観及其六朝宗教思想的關係」2007年11月23日
- 11 第53回国際東方学会議（日本教育会館）コメンテーター 2008年5月16日
- 12 第三屆中日仏学会議（中国・北京）「中国仏道教圍繞元始天尊的論争」2008年10月25日
- 13 名古屋大学・陝西師範大学共催国際シンポジウム（名古屋大学）「『老子道德經』關係敦煌写本小考—『老子道德經義疏（佚名）』（S6044+BD14677）を中心に—」2008年11月23日
- 14 敦煌道教文献シンポジウム（名古屋大学）コメンテーター 2012年3月25日
- 15 東アジア仏教研究会第11回年次大会（駒澤大学）「仏典『温室經』と道典『洗浴經』」2012年12月1日
- 16 中・日・韓宗教学術論壇—道教与中国文化（中国・泉州）「司馬承禎与天台山」2012年12月14日
- 17 六朝学術学会第27回例会（愛知大学）「京都国立博物館所蔵敦煌道經小考」2013年12月7日
- 18 ソウル大学宗教問題研究所主催国際シンポジウム「宗教としての道教にたいする多角的接近」（韓国・ソウル）「道教造像と元始天尊」2017年8月8日

## 講演

- 1 平成7年度名古屋大学公開講座『生命を考える』（名古屋大学）「道教と生命観」1995年8月
- 2 東洋文化振興会例会（名古屋）「道教概説」2003年10月11日
- 3 全国漢文教育学会研修会（斯文会館）「道教」2006年7月27日
- 4 NHK名古屋文化センター（名古屋）「仏教伝来と中国思想」2006年10月14日
- 5 名古屋大学図書館友の会ふみよむゆふべ（名古屋）「貝原益軒『養生訓』と道教思想」2006年12月8日

- 6 中村生涯学習センター（名古屋）「中国古典「老子」—歴史と文化について考える—」2010年6月～7月、4回
- 7 名古屋大学図書館友の会ふみよむゆふべ（名古屋）「『老子』の誕生と歴史」2010年11月30日
- 8 東洋文化振興会例会（名古屋）「仏教伝来と中国思想」2012年5月12日
- 9 東洋文化振興会例会（名古屋）「空海の三教観—『三教指帰』を読む—」2013年5月11日
- 10 東洋文化振興会例会（名古屋）「空海の文字観と唐代道教」2014年5月10日
- 11 東洋文化振興会例会（名古屋）「顔真卿と道教」2015年5月9日
- 12 東方学会平成27年度秋季学術大会（日本教育会館）「六朝道教と『莊子』」2015年11月6日
- 13 上海師範大学古典学名家専場講座（中国・上海）「陸修静与『莊子』」2016年3月26日
- 14 東洋文化振興会例会（名古屋）「『老子』と道教」2017年5月13日

#### 辞典類（項目執筆）

- 1 『中国思想辞典』（日原利国編、研文出版、1984年4月）「呉筠」「沈約」
- 2 『岩波仏教辞典』（中村元・福永光司・田村芳朗・今野達編、岩波書店、1989年12月）「罪業」「齋日」「世界」「道士」ほか約70項目
- 3 『道教事典』（野口鐵郎・坂出祥伸・福井文雅・山田利明編、平河出版社、1994年3月）「坐忘」「坐忘論」「司馬承禎」「青童」「呉筠」「玄綱論」
- 4 『中華道教大辞典』（中国社会科学出版社、北京、1995年8月）「《初期的道教—道教史研究之一—》」「《中国宗教史研究之一》」「《道教思想史研究》」
- 5 『岩波哲学・思想辞典』（廣松渉・子安宣邦ほか編、岩波書店、1998年3月）「魂魄観」「上清派」「『真誥』」「恩」「仏道論争」「『理惑論』」「天」「靈魂」
- 6 『中国思想文化事典』（溝口雄三・丸山松幸・池田知久編、東京大学出版会、2001年7月）「道」「命」「物」「名分」「鬼神」「道教」
- 7 『中国文化史大事典』（尾崎雄二郎・竺沙雅章・戸川芳郎編集代表、大修館書店、2013年5月）「魏華存」「麻姑」「紫姑」「茅山」「登真隱訣」「自撰」「瘟神」「枕中書」「方諸青童君」「三茅君」「司馬承禎」「承負」「真誥」「種民」「魔」「鬼」「茅山派」「太平經」
- 8 『岩波 世界人名大辞典』（岩波書店、2013年12月）「老子」「葛玄」「呉筠」「左慈」「司馬承禎」「陸修静」「王浮」「孫登」「閻丘方遠」

#### その他

- 1 『注維摩詰経索引』（末木文美士・麥谷邦夫他と共編、1980年2月、自家出版）
- 2 「鬼神」（『月刊しにか』1997-12、特集：儒教のキーワード、pp. 58-61、1997年12月）
- 3 「魏華存」（『月刊しにか』1999-12、特集：中国史のなかの女性たち、pp. 30-31、1999年12月）
- 4 「『真誥』道教と文学」（週刊朝日百科『世界の文学』104、p. 121、2001年7月）
- 5 「福永光司先生を偲ぶ」（『東方宗教』第100号、pp. 107-109、2002年11月）
- 6 「道教関係著書論文目録（2001年）」（『東方宗教』第100号、pp. 1-44、2002年11月、寺西光輝・梁音と共編）

- 7 『太上一乗海空智蔵経索引』（名古屋大学情報文化学部比較文化形成論講座、2003年3月、進藤浩司と共編）
- 8 「道教関係著書論文目録（2002年）」（『東方宗教』第102号、pp. 1-44、2003年11月、寺西光輝・梁音と共編）
- 9 「荘子と道教と福永先生」（世界古典文学全集17『老子・荘子』月報、筑摩書房、2004年5月）
- 10 「「2006道文化国際学術研究会」報告記」（『東方宗教』第108号、pp. 87-93、2006年11月）
- 11 「道教の天一「初期天師道」における「天帝」を中心に一」（三浦国雄発表）に対するコメント（渡邊義浩編『両漢儒教の新研究』pp. 197-201、2008年12月、汲古書院）
- 12 「老子化胡説」（新アジア仏教史6『仏教の東伝と受容』pp. 278-281、2010年12月、佼成出版社）





神 塚 淑 子 教 授